

科目名	小児看護方法Ⅰ (疾患と看護) Pediatric Nursing Ⅰ			担当教員 (研究室番号)	前田 貴彦 (206) 上杉 佑也 (208) 西山 修平 (208)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学			選択 区分	必修	単位数 (時間)	1 (15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
												オープンクラス	否
科目 目的	小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を習得する。												
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。 (思考・判断)											
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)											
到達 目標	1. 健康問題が子どもと家族の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を検討し、記述することができる。 2. 健康問題をもつ子どもの身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を解決するための看護方法について、成長・発達段階に応じた方法を検討し、記述することができる。 3. 健康問題をもつ子どもの家族の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を解決するための看護方法について検討し、記述することができる。 4. 小児の看護技術の特徴や特殊性について記述することができる。												
成績評価方法 (基準)		筆記試験 (80%)、事前学習内容 (20%) 事前学習未提出およびグループワークを欠席した場合は減点対象とする。											
再試験の有無と 基準等		科目の合格結果で不合格となった者には、当該学生からの申請があれば再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、それまでの課題や出席状況は再試験の評価に加味しない。											
教科書		系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院)											
参考書等		講義の中で必要時提示する。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待		本授業では事前学習の内容をもとにグループワークを行い、事例に対する具体的な看護を検討する。事前学習をもとにグループワークを進めるため、各自がしっかりと事前学習に取り組むこと。また、グループワークでは、活発な意見交換ができるよう、各自が自覚をもって参加すること。											
備考		小児看護概論を修得していないと履修できない。小児看護方法Ⅱの先修条件となっている。 本科目で学習する内容は3年次の小児看護方法Ⅱおよび小児看護学実習の基盤となるため、積極的な参加を求める。											
回	学習項目				学習内容						主担当 教 員	授業 方法	
1回	健康問題をもつ子どもと家族①				本科目についてのオリエンテーションを行う。 子どもの身体・精神・社会的特徴と行動上の特徴について学ぶ。 子どもの認知発達の特徴および病気や死の理解について学ぶ。						前田	講義	
2回	健康問題をもつ子どもと家族②				健康問題をもつ子どもと家族の特徴について学ぶ。 乳児期から思春期にある小児の看護の特徴について学ぶ。						前田	講義	
3回	検査や処置を受ける子どもと家族の看護				子どもの権利を考えた上で、検査や処置を受ける子どもと家族への援助方法について学ぶ (プレパレーションの概念と具体的な方法)。						前田	講義	
4回	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護①				食物アレルギーや1型糖尿病といった慢性疾患が子どもと家族に及ぼす影響や問題とその看護方法について、各自の事前学習をもとにしたグループ討議を通して学ぶ。						前田他	演習	
5回	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護②				慢性疾患 (主にアレルギー疾患) が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学ぶ。						西山	講義	
6回	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護③				慢性疾患や先天的な疾患が子どもと家族に及ぼす影響や問題を解決するための看護について学ぶ。						前田	講義	
7回	難病をもつ子どもと家族の看護①				難病 (小児がんや自己免疫疾患) が子どもと家族に及ぼす影響とその看護について、各自の事前学習をもとにしたグループ討議を通して学ぶ。						前田他	演習	
8回	難病をもつ子どもと家族の看護②				難病が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学ぶ。 難病が患児と家族に及ぼす影響や問題を解決するための看護について学ぶ。						前田	講義	

学 習 課 題
※事前学習課題 4回食物アレルギー(卵)またはⅠ型糖尿病、7回急性リンパ性白血病または若年性突発性関節炎 4. 7回の授業で扱う疾患が、子どもと家族の身体・精神・社会的側面に及ぼす影響や問題について各自で考え、所定の用紙にまとめる。 また、それらの影響や問題を軽減・解決するために必要な看護について各自で考え、所定の用紙にまとめる。 各自がまとめた事前学習の内容は各授業でのグループワークで活用するとともに、評価の対象となる。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員、看護職として小児看護等の臨床経験を有する。担当教員は看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。